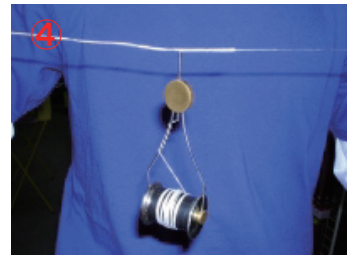
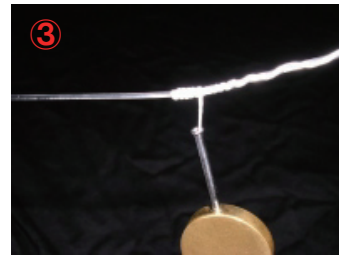
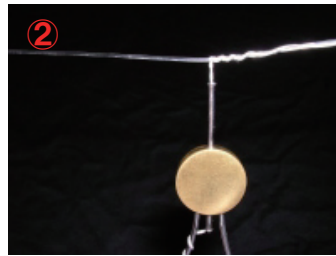
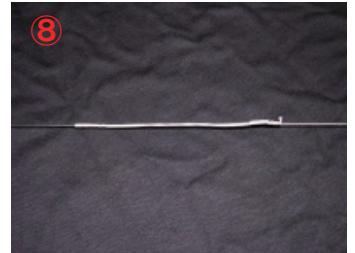
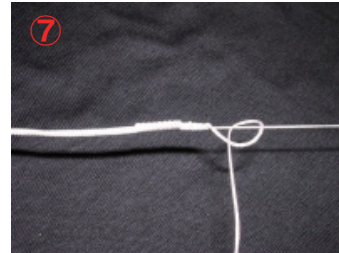
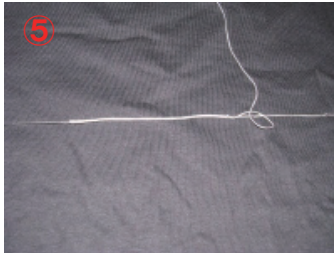


PRノット作成法



①ボビンホルダーのノズル側からメインラインを差し込み、ボビンのリングにメインラインをはさむ。ボビンを10～15回、回転させて巻き付けたらボビンを一旦取り外して、ホルダーのアームに5～6回巻き付ける（テンションを掛けるため）。②リーダーの端から、40～50cm位の所にノズルを合わせ、手前（自分側）にゆっくり回転させながらリーダーにメインラインを10～15mmの長さ密に巻き付けてゆく。③今度は逆に巻き戻してゆく。巻き戻しの最初は手で行った方がやりやすい。④4～6号で8～13cm、8号なら15cm位密に巻き付けてゆく。このときノズルをラインに沿わせて巻かないとテンションが巧く掛からない。（④の状態でなければならない）



⑤⑥ボビンを取り外す。メインラインの端糸を50cmくらい残して切り取り、リーダーとメインラインごとハーフヒッチで強く巻き止めてゆく。必ず回転させた方向からハーフヒッチを作ること。（10～15回）⑦⑧リーダーを2～4mm残して切断する。この時点でメインラインとリーダーを両手で強く引いて、ノットにズレができないか確認する。メインライン保護のためメインラインに端糸で8～10回ハーフヒッチで編みこんで完成。（ここは極端に強く編むとメインライン劣化の恐れがある）

巧く作れない場合は下記の項目を確認して下さい。

1. ボビン回転中はメインライン側とリーダー側を両手でしっかり引っ張っておくこと。
2. ノズルをラインにきっちり這わせることで、強くテンションを掛けてやること。
3. 最初のハーフヒッチの後、締め具を使ってしっかり締め込んでおくこと。

慣れれば、船上でも簡単にできるようになります。

内臓のウェイト調節シャフトの使い方

レギュラーサイズのPRボビンにはウェイト調節用のシャフトが内蔵されています。使用するPEラインが2～3号の場合はシャフトを抜いて御使用ください。4～8号はシャフトを入れてください。

LIGHT WEIGHT ボビンを使ったPE0.8～2号位の細糸用のPRノットを作る場合も基本的作成要領は通常のレギュラーサイズボビンによるPRノットと同じですが一部要領が異なります。

1. ボビンへの巻き付け回数は8～10回が適当です。
2. ボビンホルダーのアームへの巻き付け回数は3～4回が適当です。
3. 巻き付け中、両手の張りは太糸で作る場合よりも抑え気味にした方が縮れずに綺麗に作れます。
4. 巻き付け部分の長さは20～40mm位が適当です。（細いラインほど短くする）

PR BOBBIN HEAVY WEIGHT に関して

用途 GT、マグロのハイドラグゲーム、ヘビージギングや泳がせ。

上記の用途でPE#8-12号を使用する場合にヘビーウェイトタイプをご使用ください。

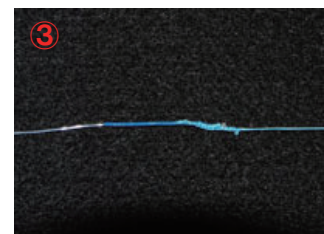
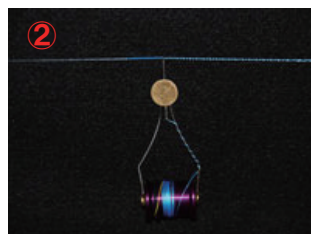
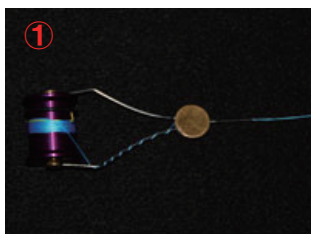
その場合のホルダーアームへの巻き付けは7-10回が適正です。

尚、PE#4-6でのキャスト用ショートPRノットを使用する場合にもヘビーウェイトボビンは有効です。

⚠ 危険

ヘビーウェイト使用時はラインテンションが強いので、両手でしっかり保持して使用しないと大変危険です。

PR KNOT FOR CASTING



- ①サンプルの5号の場合アームへの巻き付けは7～8回。手で引っ張っても簡単には出ない位を目安にします。
- ②通常のPRノットの要領で巻きつけていきますが、両手できつく引っ張っておかないと縮れやすくなります。巻きつけたPEラインがFGノットのような透明になればOK。水分を付けておくとよく締まり、摩擦熱も少なくなります。
- ③ノットの長さは4～5号で約2～3cm、6号で3～4cmが目安。最後は通常のハーフヒッチとエンディングノットでOKです。一番のコツは強力なテンションを上手に掛けること。最初はボビンすら回転しないかもしれませんが、慣れてくると意外と簡単に決まります。8号以上は既存のPR BOBBINではウェイトがやや不足気味です。4～6号に最適です。

NOTICE! PRノットは、このシンプルなシステムで完璧に作成することが可能です。過剰機能のツールは全く必要ありません。

⚠ 危険

回転運動中のボビンが不意にホルダーから外れて作成者や周囲の人間に深刻な負傷を与える危険性があります。安全には十分留意してご使用下さい。